

人権・同和教育だより

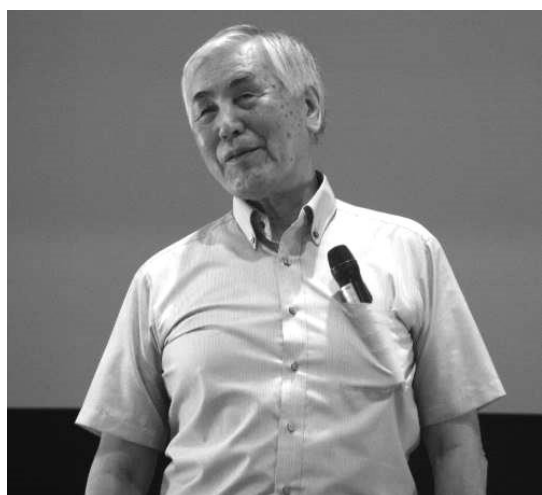
7月16日(木)に人権講演会を開催しました

NPO法人ヒカリカナタ基金理事長 竹内昌彦さん

私の歩んだ道

～見えないから見えたもの～

終戦の年に生まれた竹内さんは、幼少期にほとんどの視力を失い、数年後には網膜剥離によって完全に失明してしまいました。それからの竹内さんの人生は、いじめや障がい者差別など、数々の困難とのたたかいでした。



竹内さんの人生で一番つらかったこと、それは障がいのあるご長男とのあまりにも早すぎる別れでした。そんな大きな悲しみも乗り越えて、自分の信じる道を歩いてこられた竹内さん。「自分がこれまでの人生で経験してきたことから、何か一つでも学んでもらえれば……」との思いから、岡山盲学校教員のころから全国各地での講演活動を続けられています。

教員退職後に、「アジア諸国の視覚障がい者にマッサージを勉強する機会を与えて自立を支援したい！」と決心された竹内さんは、講演料や著書の売上を投じて、モンゴルとキルギスに盲学校を設立されました。そして現在は、NPO法人ヒカリカナタ基金を立ちあげられ、目の見えない子どもたちの治療費に充てる活動に取り組まれています。

どんなにつらいときでも、決してめげることなく、前向きに歩み続けることの大切さ。「生きる」ということの意味。「命」というものの尊さ。竹内さんのご講演からは、たくさんのことを教えていただきました。とても75歳とは思えない若々しい竹内さんのお話に、私たちが「明日からも頑張って生きよう！」と元気や勇気を与えていただいたように感じています。

生徒の感想文を、ほんの一部ですが紹介します

・私の見える目も、聞こえる耳も、動く手足も、すべてが“当たり前”のことではなくて、もっともつと大切に思うべきことなのだなと思いました。





・これからの生活の中で、障がいのある人に出会うことがあったら、絶対に差別をせず、自分が（その人の）一番の味方でいてあげたいと思います。

・自分が大人になって“守りたい人”ができたときに、「自分のすべてをかけてでも幸せにする」という思いを持てるように、今から周りの人や友だちに優しく接していきたいと思いました。

・日ごろ、親に感謝の気持ちで接することができていないので、これからは、言葉には出せなくても、感謝を忘れずに生活していきたいです。自分の誕生日には、竹内さんがおっしゃっていたように（親に）「生んでくれてありがとう」と伝えようと思いました。

も、感謝を忘れずに生活していきたいです。自分の誕生日には、竹内さんがおっしゃっていたように（親に）「生んでくれてありがとう」と伝えようと思いました。

・ほかの人と違うということで差別するような人間ではなく、その人の幸せを自分の幸せとして感じられるような人間になりたい、と（竹内さんの話を聞いて）感じた。

・「人からありがとうといわれる人生を送ってください」という竹内さんの言葉を忘れず、これからの人生を送っていきたい。

1学期人権・同和教育LHR 学んだ内容を紹介します

1年 「よい人間関係を育てよう」では、一人ひとりが楽しく充実した学校生活を送るためのヒントとして、いじめ問題について考えることをとおして、望ましい人間関係について考えました。他人の痛みに対する想像力を養うことの大切さを学びました。「ネットいじめに向き合う」では、DVDを視聴しながら、ネットトラブルの解決に向けての方法について具体的に考えました。

2年 「同和問題に向き合う」をテーマに、日本固有の重大な人権問題である同和問題についての学習に、年間をとおして取り組みます。1学期は、1時限目は被差別部落の歴史について学び、2時限目は部落差別の問題に向き合ってきた若者たちの姿を紹介するDVDを視聴しながら、私たち一人ひとりが同和問題について正しい知識をもつことが、差別解消に向けての第一歩であることを学びました。

3年 「差別と闘う人間になるために」のテーマで、就職差別のを中心に学びました。2006年度の本校卒業生が制作したDVD『就職差別について』などを用い、面接試験での質問のうち「就職差別につながるおそれのある12項目」（以下、「12項目」）について知るとともに、その対応を確認しました。“12項目に抵触する質問に答えない”ことが差別をなくすためにできる具体的な行動の一つであることを知り、同和問題の解決が私たち一人ひとりの問題であることを理解しました。